



武が浜にお住まいの  
**高瀬 このみさんの**

えいき  
**長男 英嬉 くん (4歳2か月)**

さてよいよいよ〜い！  
お祭り大好き！  
おうちでも保育園でも  
毎日太鼓の練習をしているよ♪  
早く大きくなって、  
「おみこし」を担ぎたいなあ・・・

みなさんのお宅のアイドルの写真を募集しております。市役所総務課へどしどしお寄せください。

## 幻の反射炉

〜江川代官と  
高馬反射炉〜

本年7月、葦山反射炉（伊豆の国市）が世界遺産に登録され、伊豆に明るい話題を提供しました。今こそ葦山にある反射炉ですが、建設を建議した江川英龍の当初計画では本郷村高馬（下田）に造られる予定でした。しかし、ある事件により高馬反射炉は幻となってしまいました。

### 江川英龍と反射炉

江戸時代後期の葦山代官江川太郎左衛門英龍（一八〇一―一八五五）は、伊豆を含む幕領八万石を支配する傍ら、海防（異国船から国を守ることに）に尽力した開明的な人物でした。特に鎖国によって西洋諸国に後れをとった軍備の近代化に心血を注ぎ、西洋砲術の塾（葦山塾）を主宰するとともに国産大砲の製造を目指し、反射炉の建設を計画しました。

### 高馬での反射炉建設

反射炉は、鑄造用の鉄塊を高温度で溶解し、大砲製造に必要な純度の高い鉄をつくる炉で、高い煙突とアーチ型の天井をもつ炉体の特徴です。

英龍は、天保年中よりオランダの技術書を元に反射炉を研究していました。課題であった耐火煉瓦用の粘土が梨本（河津）で発見されると、幕府の指令を受け、嘉永七年（一八五四）正月より、資材運搬の便と水利が良い本郷村高馬で反射炉建設に着手しました。工事は、稲生沢川を利用して鉄や石炭、各種道具を運び込み、二月には基礎工事を、三月には焼石（耐火煉瓦）の焼成を開始しました。

### 水兵の侵入と建設中止

嘉永七年三月、ペリー艦隊が下田にやってくると、遊歩権を得た水兵達は下田近郊を散策し、反射炉建設現場にも



伝高馬反射炉耐火煉瓦  
内藤恒雄氏旧蔵

たびたび姿を見せるようになりました。工事関係者が心配する中、三月二十七日には、とうとう水兵が柵を越えて侵入し、工事中の施設を物色する事件が起きてしまいました。機密の流出を恐れた幕府は直ぐに工事を中止し、四月には建設地を田方郡中村（葦山）に変更しました。そして、資材は残らず葦山へ移送され、高馬反射炉予定地は元の畑地に戻ることとなりました。

江川英龍は安政二年（一八五五）、葦山反射炉の完成を待たずに世を去りました。その二年後に完成した連双二基四炉の葦山反射炉は、日本で実際に稼働した反射炉の唯一の現存例として「明治日本の産業革命遺産」のひとつになったのです。



葦山反射炉

### 問合せ先

生涯学習課社会教育係

☎ 5055